

■ 令和元年8月27日 総務警察委員会県内調査

1 人事委員会事務局

【調査目的】職員採用の取り組みについて

【調査概要】

<説明の概要>

●試験の種類

I種試験、II種試験、市町村立小・中学校事務職員採用試験、
社会人経験者採用試験、障害者を対象とした選考試験

※I種試験及び社会人経験者採用試験では試験会場として東京会場を設置

※障害者を対象とした選考試験では、令和元年度から知的障害者、精神障害者も対象とし、試験実施にあたっては、障害の状況により、点字や拡大文字による受験、車椅子の使用等の受験場の配慮を行う。

●令和元年度奈良県職員採用I種試験実施結果

- ・受験者数の減少により全体的に競争率の低下がみられる。
平成30年度 4.1倍 → 令和元年度 3.2倍
- ・行政Aでは、令和元年度の合格者の女性割合が55.1%となり、合格者の割合が昨年度と比べ男性と逆転した。

●令和元年度奈良県・市町村土木職員採用共同試験

- ・奈良モデルの一環として、奈良県内の市町村と土木技術職員を採用するため、共同で試験を行う取組を行っている。
- ・令和元年度は、奈良県内の6市町村と奈良県が土木技術職員を採用するために共同で試験を行う。
- ・令和元年度から試験会場として東京会場を設けている。

●平成30年度リクルート関連事業

① 奈良県職場見学会

【第1弾】

- ・県職員の職場を実際に見学し、話を聞くことで、「奈良県庁で働きたい」という意欲を惹起し、優秀な人材の確保を図る。
- ・採用後、2つ目の職場として考えられる本庁舎以外の職場やそこで働く職員の勤務の様子を直接見聞きすることにより、出先機関の雰囲気を知る。

【第2弾】

- ・県職員の職場を実際に見学し、話を聞くことで、「奈良県庁で働きたい」という意欲を惹起し、優秀な人材の確保を図る。
- ・採用から10年以上経過し、複数の所属を経験してきた中堅職員（係長以上）から職務内容やキャリアを聞き、仕事のやりがいや苦労・楽しさを感じてもらう。
- ・参加者の年代に近い若手職員からも担当業務の内容や経験談を聞き、各課の見学を通して職場の雰囲気を体験する。

② 奈良県庁現場最前線視察ツアー

- ・平成31年度奈良県職員採用試験の受験を検討している学生等に対して、県が発注する施工現場等を見学することで、技術系職員のやりがいを実感してもらうとともに、業務内容等についての理解を促す機会とする。
- ・参加者が、県が実際に施工する現場を見学することにより、それぞれの個性や適性に合った職業選択の機会とする。

③ 奈良県職員・警察官採用説明会

- ・県職員・県警察官を志望する者を対象に試験制度の理解促進を図る。

- ・試験分野ごとに若手職員との座談会により、具体的な仕事内容や魅力を知ってもらうことで、業務への関心・意欲を高め、より資質の高い人材の確保につなげる。
- ④ 技術系職員県庁職場見学会
 - ・県職員（技術系）を志望する者を対象に試験制度の理解促進を図る。
 - ・試験分野ごとに若手職員との座談会や職場見学により、具体的な仕事内容や魅力を知ってもらうことで、業務への関心・意欲を高め、より資質の高い人材の確保につなげる。
- ⑤ 大学等での業務・採用説明会
 - ・近畿地方の主要大学、公務員予備校等での説明会に参加し、奈良県職員の業務に関心のある参加者（主に大学3・4年生）に対して、業務内容や採用試験制度等の説明を行う。
 - ・大学での開催の場合は、参加者の関心を高めるため、可能な限りOB・OGの職員が同行し、先輩としての立場から自身の業務内容や受験体験等の説明を行う。
- ⑥ 奈良県庁ナビ
 - ・県職員の仕事に興味があり、県職員との意見交換や職場見学を希望する学生等を対象に、県の職場において、一対一で県職員が学生等からの質問に答えたり、説明することを通じて、県職員の仕事に理解を深めていただき、奈良県職員採用試験受験者の増加及び多様な人材の確保につなげる。
- ⑦ 奈良県職員業務案内パンフレット
 - ・奈良県職員を志望する受験予定者だけでなく、他の公務員や民間企業への就職を志望するものにも関心を抱かせ、奈良県職員採用試験受験者の増加及び多様な人材の確保につなげる。

●その他

- ・大学での説明会に参加した人は高い受験率であることから、これからも積極的に取り組みたい。
- ・今年度の受験者のアンケート結果から、親や知人の勧めによる受験率が高いことがわかったが、親等への働きかけも何か必要になってきたように思われる。
- ・働き方改革を通じて、若手職員が充実した職業生活を送れるようになれば、大学説明会等で、対外的に自らの仕事への満足度を語るができるようになると思われる。
- ・例えば、小学校で開催される、租税教育の場でも、税の重要性とともに、若手職員自らの仕事ぶりを魅力的に伝えれば、児童は県職員への受験動機を持つようになるものと思われる。
- ・今年度の受験者は第2次ベビーブームの子ども世代にあたるため、現時点では、少子化が進む中でも、比較的人口は多いほうである。今後、中長期的に若年人口は減少が想定されることから、県行政の担い手となる職員について、女性や高齢者のさらなる参加、さらには、外国人の活用も視野に入れ、総合的に考えていく時代になってきたように感じられる。

【質疑応答】

- Q：大学で開催される説明会について、派遣される方のプレゼンテーションのスキルアップはどのように図られるか。
- A：大学での説明会に参加して受験される方が多いことから、大学での説明会は重要と考える。OB・OG職員に業務内容等を話してもらうに当たっては、話し方等についてOB・OG職員と十分な調整が必要と考えている。
- Q：入庁者の出身大学の割合はどうか。
- A：令和元年度は、1位 関西大学、2位 同志社大学、3位 立命館大学。
- Q：精神障害者の採用について、精神障害者はいろいろな体調の日があるが、体調のよくない日は選考に不利になるのではないか。
- A：平等取扱の原則により、同じ日に同じ条件で試験を行う必要がある。試験当日にどのような配慮が必要かは事前に調整し、合理的な配慮を行うことになる。



2 万葉文化館

【調査目的】万葉文化館の概要について

【調査概要】

<説明の概要>

●万葉文化館の概要について

- ・敷地面積： 38,364㎡
- ・建築面積： 6,234㎡
- ・庭園面積： 20,000㎡
- ・建物： 展示棟、管理棟
- ・開館： 平成13年9月15日

●一般展示室について

- ・歌の広場では、「八十のちまた」をイメージした、古代の市空間を再現、万葉時代の芸能人のようすなどが展示されている。
- ・万葉おもしろ体験では、万葉人の生活や仕事などについて、インタビュー方式で対話する「万葉びとの暮らしインタビュー」や、画像合成で来館者が万葉びとに変身できる「ファッション変身ゲーム」、万葉びとの遊び道具を展示した「万葉びとの遊び」などのコーナーがあり、当時の人々の遊びや暮らしの疑似体験ができる。

●特別展示室について

- ・万葉文化館建設敷地の事前発掘調査で明らかにされた、飛鳥池工房遺跡の発掘成果を時代背景などとともに紹介されている。
- ・発掘されたさまざまな出土品や、わが国最古の鑄造銭とされる「富本銭」なども紹介されている。

●多目的ホール、万葉図書・情報室

- ・多目的ホールは、自主企画の展示や、シンポジウム、イベントなどに利用されている。
- ・万葉図書・情報室には、万葉集をはじめ、広く日本の古代文化に関する図書資料があり、江戸時代刊行の貴重な「寛永版本万葉集」をはじめ役1万5千冊を収蔵している。また、全国で初めて「万葉集」や万葉集に関する情報を収録したデータベースを構築し、万葉集に関する情報が簡単に検索できる。

●最近のイベント

- ・日本書紀をよむ講座を隔月で開催
- ・にぎわいフェスタ万葉を四季の季節ごとに開催。万葉の日記念講演会「令和から読む万葉集」やコンサートなどを実施。

●集客の状況

- ・本年度の改元において、新たな元号とされた「令和」が万葉集に由来するということから、万葉集が注目され、4月から7月の入館者数は対前年度比154.95%と急増している。

●『万葉集』と「令和」

- ・「令和」は、梅花の歌三十二首并せて序に由来する。
 - ・ . . . 時に、初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。
- (訳文)
 - ・ . . . 時あたかも新春の好き月、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている。 . . .
- ・ 大伴旅人の家に集まって開かれた正月の梅の花の宴を旅人が描写したものである。
- ・ 原文は漢文。
- ・ 熟語ではなく、文から文字をピックアップする手法は、これまでの元号でもよくつかわれている。
- ・ 「令」は、命令の令のようなイメージではなく、ご令嬢などに使われる「よい」という意味

